



# 友達になろう

## BE A FRIEND

1994—95年度国際ロータリーのテーマ

- 国際ロータリー会長 ビル・ハントレー ●第2560地区ガバナー 大島 精次
- 会長——高橋 一夫 ●副会長——石橋 育於
- 幹事——五十嵐晋三 ●副幹事——松谷 昊吉
- SAA——平原 信行 ●副SAA——清水 良一 ●例会日——毎週水曜日 12:30～
- 例会場——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店 TEL 34-3311
- 事務局——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店 TEL 35-3477  
FAX 32-7095

出席者会員数	会員 79名中 56名
先々週出席率	85.14% (前年同期 89.47%)
ヴィジター	三条北より 中條耕二さん、堀川正幸さん
ゲスト	ロータリー財団学生 古沢有峰殿
先週のメイクアップ	<p>2/16 新潟県会長会議へ 石橋育於さん、野村竹三郎さん</p> <p>2/20 三条南へ 古沢富雄さん、鈴木宗資さん、五十嵐晋三さん</p> <p>2/21 三条北へ 長谷川有美さん、林 光輝さん、清水良一さん、加藤紋次郎さん、五十嵐昭一さん</p>
幹事報告	五十嵐(晋)幹事
◎例会変更のお知らせ!	
三条南RC	3月6日(月) 雪と酒とフラメンコ 於新潟スプリングス
三条北RC	3月28日(火) 鮭稚魚放流例会

◎三条市教育委員会より

市内特殊学校学級児童生徒の「卒業進級を祝う会」出席お礼状がとどいております。

◎県立月ヶ岡養護学校より 作品展のご案内

と き 2月25日(土)～26日(日)

と ころ 長崎屋東三条店

◎三条ライオンズクラブより 市民サービス講演会のご案内がとどいております。

と き 3月24日(金) 18:30～ 於三条商工会議所

講 師 中越高校野球部監督 鈴木春祥氏

「甲子園へ！ここまで育てた雪国野球の夢」

3月のお祝い

◎会員誕生祝 2日 日戸平太さん 5日 小林正義さん 5日 三堀正純さん  
 6日 金子左武郎さん 6日 小林英雄さん 12日 田中 昭さん  
 14日 平原二三郎さん 15日 岩井和夫さん 24日 山浦日出夫さん  
 31日 金沢興宗さん

◎夫人誕生祝 11日 渡辺洋子さん(喜彦) 16日 熊倉恵子さん(昌平)  
 21日 小林房子さん(九満太) 23日 加藤一代さん(紋次郎)  
 26日 内山セツ子さん(辰策) 26日 川又麻稚香さん(嘉瑞範)  
 28日 宇溜間雅子さん(一知) 29日 野水富子さん(文治)

◎結婚記念祝 16日 荻根沢隆雄さん 17日 金沢興宗さん 26日 関本哲秀さん  
 29日 寺沢 博さん

◎100%出席賞(1年間) 2年 佐藤 武さん 2年 荻野保和さん

◎100%出席賞(6ヶ月) 五十嵐寿一さん 石橋育於さん

ニコニコBOX ¥11,000

2月22日分

北ロータリー 堀川正幸さん 久しぶりにおじゃまします。  
 高橋(一)さん 一週間ハワイのバカンスを楽しんできました。  
 五十嵐(晋)さん 先週は松谷さんに代わっていただき、ありがとうございました。  
 高 森 さん ハワイの大自然を満喫して来ました。  
 熊 倉 さん 古沢有峰さんを歓迎して。  
 渡辺(宏)さん 古沢さんを歓迎して。  
 榎 本 さん 古沢有峰さん、1ケ年の留学大変御苦勞様でした。  
 佐藤(武)さん 古沢有峰さんの卓話を楽しみにしております。  
 松 縄 さん 都合で10分程早退させていただきます。  
 寺 沢 さん 都合により、早退させていただきます。

卓 話

ロータリー財団学生 古沢有峰殿

本日は、ロータリークラブの例会にご招待頂き、誠に有難うございました。まずは無事帰国いたしましたことをご報告させていただきます。そして、この素晴らしくも有意義な1年間を与えてくださいました皆様方に感謝の気持ちをお伝えするという意味も込めまして、まだまだ若輩の私が恐縮ではございますが、本日はお話しをさせていただきたいと存じます。



私は1994年10月14日より1995年8月29日までの期間、スイスにおける商業的・経済的な中心都市でもあるチューリッヒ市に留学いたしました。チューリッヒにおきましては、民族学専攻の学生としてチューリッヒ大学に籍を置き学ぶと共に、チューリッヒに近いキュスナハトというところにある、チューリッヒ・ユング研究所というところにも研究生として在籍いたしました。本日お話しをさせていただきますことは大きく分けて二つございます。まず一つ目は、このスイス留学の期間に私自身が実際に体験し見聞きしたことから私自身が強く感じたこと、そしてもう一つはこの留学が今後の私の進路にどのように影響していくことになるのか、ということです。

私は教会の運営する学生寮に住んでおりましたが、ここには20数名に及ぶ様々な国籍の学生が生活を共にしておりました。地元スイスの学生、と一口に言ってもそれぞれドイツ語圏、フランス語圏から来ており、それぞれやはりカラーが違いました。他にもドイツ、フランス、アメリカ、チェコ、マダガスカルからの学生がいましたが、アジア系の学生は私一人でした。このような国際的な雰囲気のある学生寮で、私は本当にかげがえのない貴重な経験をすることが出来たと思っております。

中でも一番数の多かったのはやはり地元のスイスの学生たちでしたが、彼等の積極性には非常に学ぶべきところが多かったと感じます。例えば、何か寮全体でボランティア的なものに参加しよう、といった計画をたてるような事に彼等は非常に積極的でした。また、日本の若者の選挙に関する関心といったものは一般に低いように思われますが、スイスの若者の選挙に関する関心の深さは目を見張るものがありました。これは、選挙が直接民主制によって行われることとも関係があるように思われますが、それにしても常に投票率が80～90%近くというのは驚異的です。しかもこれは実際に寮で目にしたことで、彼等は投票速報をテレビの前でまるでサッカーの試合を応援するかのよう熱心に注目した上に、その選挙における争点やそれに関連する重要な政治的な話題を熱心に議論するのです。

私がスイスにいたとき行われた選挙の争点の一つは、PKF(日本において自衛隊のPKO派遣が問題となりましたが、それに加えて具体的に武器を装備した形で紛争地での国

連活動に加わること)に参加したいという個人の選択を認めるかどうか、というものでした。ご承知のとおり、スイスは永世中立国であり国連にも加盟しておりません。成人男子には基本的に有事の際には兵隊となって国を守る義務が課されており、その期間には学業も一時中断されます。寮にもその訓練期間の後帰ってくる学生がいました。国の法律により、スイスの軍隊は外からの攻撃に対して自分を守ることのみ使われます。従いまして、若者達の間には、相次ぐ国際紛争を解決するための一員となってPKFに参加することを希望する人も出てきましたが、それは法律的に認められていませんでした(このときの国民投票においてもこれは否決されました)。冷静に考えて見れば、現在も紛争の続くボスニア・ヘルツェゴビナはイタリアを挟んですぐの所にあるのです。いざという時戦うのは自分達自身だ、というこういった自覚があるからこそ、このように若者達の(そして例えば母親といった、彼等に関わる女性達についても同じですが)政治に参加しようという意識につながっているのだと私は考える次第です。そしてこのような彼等の在り方が、二度の大戦をくぐり抜けてなおも続く、ヨーロッパでも優等生といわれる社会的経済的安定をスイスにもたらしてもいるのです。

彼等のこのような「自分達が参加しよう」という意思が、彼等の独立心やボランティア精神といったものに大きな影響を与えていることは容易に想像できることかと思えます。例えば、スイス人の友人とドイツ人の友人とPKOとPKFについて話をしました。スイスとドイツと日本とでは歴史的背景の違いもあるため、一概に比較することは出来ませんが、敗戦国であることから軍備の問題に関しては非常に神経を尖らせて検討を繰り返してきたドイツは、今回平和貢献のためにということでNATO軍における海外派遣を認める、という連邦裁判所の判決によって派遣に踏み切りました。また、スイスでは国民投票によって永世中立を維持していく判断が下されました。それに比べますと日本におけるこの重要事の決定は何かなし崩し的だった印象が拭い切れません。私はここでも、自分たちのことはしっかりと自分たちの意思で決めていこう、というスイスの良き伝統と歴史に感銘せずにはいられないものを感じました。

これはもう一つの事柄、ボランティア活動においても言えることです。赤十字はもともとスイスにおいて設立された組織ですし、つい最近のこととして記憶に新しいのは、あの阪神大震災の時に真っ先に救助の手を差し伸べて来たのもスイスでした。しかもあの災害救助犬を派遣してきたのは民間の非営利団体でした。スイスの犬と日本の首相が災害地に到着したのが同じ日だった、というのはやはりどう考えても問題があったように思います。そして私自身は首相個人の問題というよりも、こういった事に対応しきれない土壌を日本の官僚組織自体が持っている、とう意見のほうに傾けるように感じます。これは私自身のあの一年の留学での経験から感じるものでありました。

私はこの春から京都大学の大学院に進学いたします。今回の試験におきましては、ロー

タリーの奨学金をいただきましてスイスで学んで参りましたことが十二分に評価されましたことが合格の理由だったのではないかと考えております。大学院におきましては、従来勉強して参りました文化人類学を生かしながら、臨床的な心理学を学んでいくこととなります。これは具体的に言えば、カウンセリングに代表されるような、心のケア、精神的に受けた傷を胸に立ち上がろうとする人とともにあろうとするための訓練を積み、学ぶという事です。京都大学にはそのための、日本でも一番といわれる先生方がおられますし、それを学ぶための環境が揃っています。京都は神戸にも近く、実際に被災された方々と関わっていく場面が多く見られることと思えます。京都大学の相談室にもそういった方々が来談されることも考えられます。そしてそのときには、私自身は微力ではありますが、精一杯そこに関わって力を尽くさせていただきたいと考えております。それが、こういったボランティア精神を基調としたロータリークラブの奨学生としてスイスで学ぶことが出来た、そしてそこでボランティアの精神に満ちたスイスの人々とふれあいながら学ぶことの出来た私自身が今後やらなくてはならない事であると思うからです。

三條RC	3月1日例会	卓話	荻根沢隆雄殿
	3月8日例会	第2560地区	職業奉仕委員長 島田政之助殿
	3月15日例会	卓話	鈴木宗資会員
三條南RC	3月6日例会	雪と酒とフラメンコの夕べ	於 新潟スプリングス三條コース
	3月13日例会	卓話	白倉修三会員
	3月20日例会	卓話	金子晴俊会員
三條北RC	3月7日例会	夫人同伴パーティー	
	3月14日例会	卓話	斎藤会員、山口会員
	3月21日例会	休会	(春分の日)

